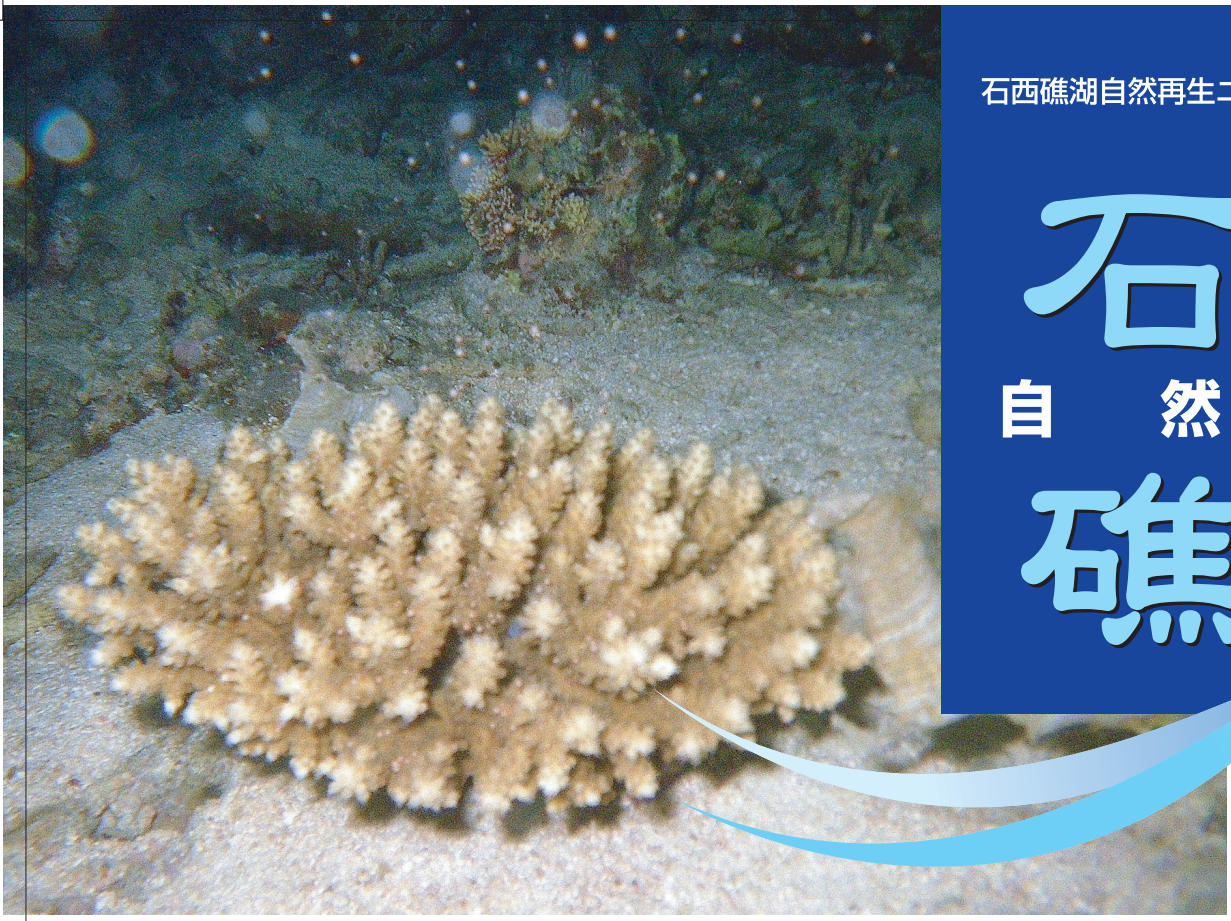
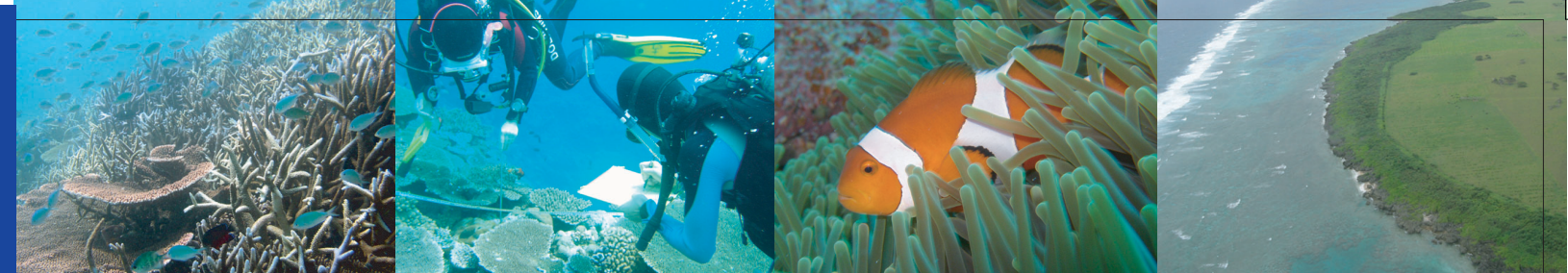


# 石西 自然再生 礁湖



▲平成18年2月に移植したサンゴの産卵（平成22年5月）

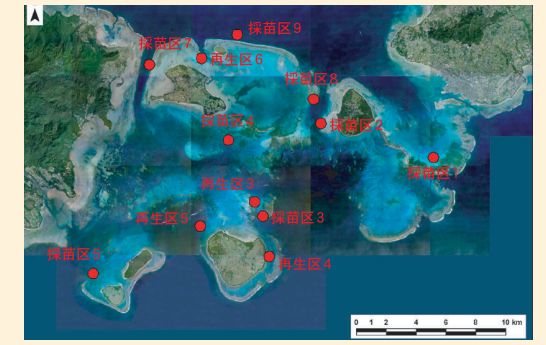


## 石西礁湖の稚サンゴ密度が増加

～平成22年度石西礁湖サンゴ礁保全総合調査稚サンゴ属別出現数調査結果(速報)～

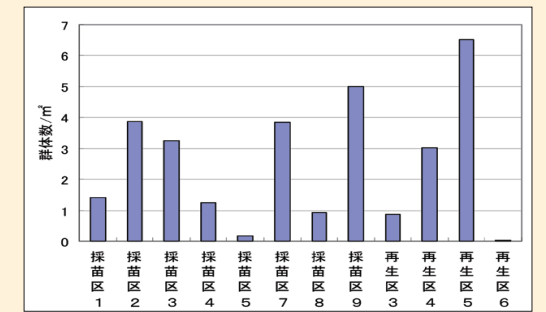
環境省では、平成16年から石西礁湖内の定点において、サンゴ礁の変化とその要因を調査しています。調査項目の一つとして、長径5cm未満の稚サンゴの属別出現数を測定しています。これは、産卵着床後、3年程度のサンゴの数を測定することにより、今後のサンゴ礁の回復傾向を知ろうとするものです。稚サンゴの数が多いと、大きな攪乱がなければ、サンゴ群集の回復が見込まれます。

平成22年度の調査は、7～8月に礁湖内の地点(図1)に設定した調査区(30m)で、観察を行いました。



▲【図1】調査地点位置

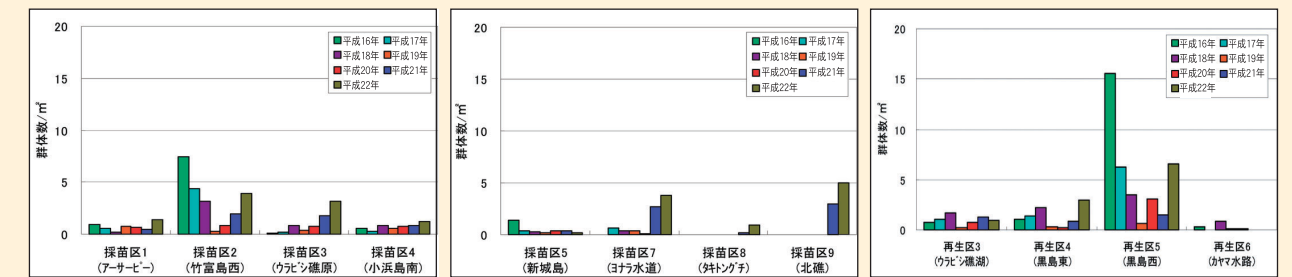
地点別稚サンゴ密度の調査結果の一部を、図2に示します。稚サンゴの最も多かったのは再生区5(黒島西沈水離礁)ですが、この地点では石西礁湖を代表するミドリイシ属は少なく、塊状サンゴがほとんどでした。次に多かった地点は、採苗区9(北礁礁斜面)、採苗区2(竹富西水路)、採苗区7(ヨナラ水道)で、いずれも水通しの良い礁斜面や水路に位置し、出現種は大半がミドリイシ属でした。



▲【図2】地点別稚サンゴ密度

出現状況を経年的に比較すると(図3)、12地点のうち9地点で、平成22年は21年の密度を上回っていました。また、平成16年から経年的な状況を見ると増加傾向を示した地点が多くみられます。

他の調査地点でも、ミドリイシ属稚サンゴが多い地点が多くみられました。これは、平成16年に定着したサンゴが順調に生育したものと考えられ、このまま順調に成長を続ければ、サンゴ礁が回復するきざしになるかもしれません。



▲【図3】地点別稚サンゴ密度の経年変化

## 石西礁湖はいま シリーズ ⑬

### 移植サンゴの産卵を確認しました!!

環境省では、石西礁湖におけるサンゴ群集の修復を目的とした、「サンゴ群集修復事業」を平成16年度から実施しています。この事業において移植したサンゴの産卵が、平成22年5月7日に確認されました。

産卵したのは、平成16年5月に産まれた卵から成長し、18年2月に黒島沖の海底に移植した生後約6年(直径約15cm)のハナガサミドリイシです。海底に設置した自動撮影カメラにより、平成22年5月7日午後10時30分ごろ、卵と精子が詰まったカプセル状の「バンドル」を放出する様子の撮影に成功しました。

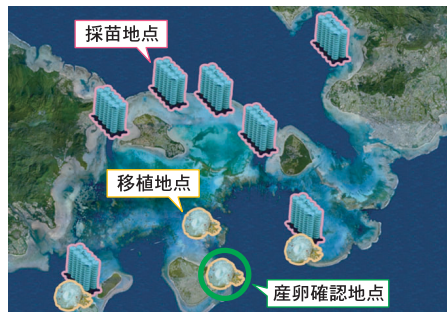
環境省では、平成14年度から自然再生事業として調査を開始し、16年度から有性生殖法※注1によるサンゴ群集修

復事業(実証試験含む)を実施しています。これまでに平成17～21年度の累計で17・516個(10個/m<sup>2</sup>)のサンゴ種苗を移植しました。

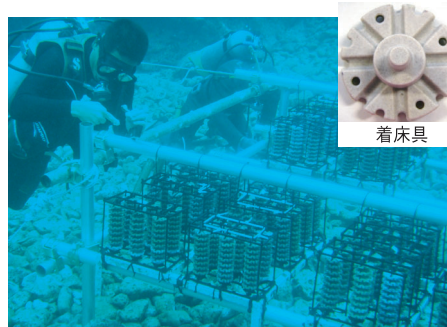
平成22年度も、昨年着床したサンゴ種苗の移植を実施予定です。

(※注1)  
無性生殖法：他のサンゴの枝などを折り取って植える方法  
有性生殖法：自然に生まれたサンゴの卵から育ったサンゴを移植する方法

環境省事業では、既存のサンゴに負荷を与えずに移植ができ、移植するサンゴの種や遺伝子の多様性を確保できる有性生殖法を採用しています。



▲平成21年度の採苗地点と移植地点



▲採苗用の着床具の設置状況



▲移植作業の様子

【石西礁湖サンゴ礁基金による助成活動一覧】

① 八重山海域におけるオニヒトデの駆除 (助成済み/活動終了)

申請者: 竹富町ダイビング組合

助成額: 15万円

趣旨・目的: 現在、八重山海域において、オニヒトデが大発生している。貴重なサンゴ群集を守るため、海域を限定してオニヒトデを駆除する。

活動の概要: 貴重なサンゴ群集がある限定した海域において、オニヒトデの駆除を実施する。

活動の結果: 計28人による2回の駆除で、約650匹のオニヒトデを駆除。



② 八重山海域におけるオニヒトデの駆除 (助成済み/活動中)

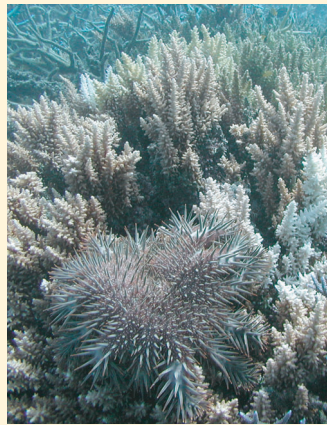
申請者: 八重山ダイビング協会

助成額: 15万円

趣旨・目的: 現在、八重山海域において、オニヒトデが大発生している。貴重なサンゴ群集を守るため、海域を限定してオニヒトデを駆除する。

活動の概要: 貴重なサンゴ群集がある限定した海域において、オニヒトデの駆除を実施する。

活動の結果: 駆除を継続中



③ サトウキビ株出し栽培への農法転換推進 (助成承認)

申請者: 干川 明

助成額: 43万円

趣旨・目的: 石西礁湖サンゴ礁保全のための陸域対策。赤土流出最大の発生源であるサトウキビ夏植え栽培を株出し栽培に変えるための支援を行う。

活動の概要: 株出し栽培を希望する農家への株出し管理機の農作業受託支援。

活動の結果: 今後助成に基づき活動を開始



④ コーラルウォッチプロジェクト (助成承認)

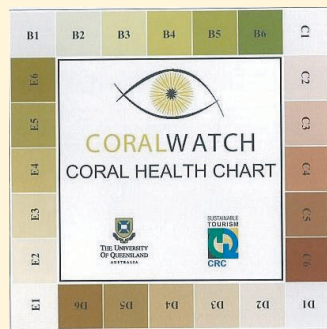
申請者: 石西礁湖自然再生協議会コーラルウォッチプロジェクト実行委員会

助成額: 7.3万円

趣旨・目的: 継続的なサンゴの観察を通じ、サンゴ礁を取り巻く自然環境の状態について理解を深め、自分達にできることを考え、環境問題や自然再生活動に前向きに関わるようになることを目的とする。

活動の概要: 八重山諸島在住者(300人程度を目標)を対象とし、コーラルウォッチを行い、石西礁湖の自然再生について関心を高めてもらう。

活動の結果: 活動中



▲コーラルウォッチパネル

石西礁湖サンゴ礁基金による  
活動助成が始まりました。

平成22年7月31(金)、沖縄県八重山合同庁舎(旧八重山支庁)にて、「第13回 石西礁湖自然再生協議会」を開催しました。今回の協議会には、事務局を含め計62名の方が出席し、活発な議論が展開されました。

協議会では、石西礁湖サンゴ礁基金を立ち上げ、活動助成が始まっています。はじめにその助成活動の報告も含め、基金からの承認事項(左記参照)について議論を行いました。次期基金運営委員の選出では、より多くの地元委員に加わっていただきたいとの意見があり、新たに(財)世界自然保護基金ジャパンWWFサンゴ礁保護研究センターの上村真二さんに委員に参加していただくこととなりました。

また、普及啓発グループから、普及啓発のためのプロジェクトやロゴマークの作成、協議会の取組体制等について提案があり、今後は石西礁湖の自然再生に向け実働的に取り組んでいくことが確認されました。

- 【協議会における石西礁湖サンゴ礁基金の承認事項】
- ① 基金の経緯
  - ② 収支・監査報告及び予算案の提示
  - ③ 活動助成の承認
  - ④ 助成活動の報告
  - ⑤ 基金運営委員及び監査員改選
  - ⑥ 新たな寄付提携等



▲基金運営委員会発表



▲質疑の様子



▲普及啓発グループ発表



▲協議会全体